



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

岡山県 岡山市立光南台中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的：オリンピック（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名：JOCオリンピック教室
- 主催：公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- 後援：スポーツ庁
- 協力：公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象：中学2年生
- 講師：オリンピック（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間：2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数：80校程度
- 実施方法：クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、チームワーク、フェアプレー、身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、
今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック**：坪井 保菜美 先生 (体操／新体操)【出場オリンピック／北京2008大会】

■ **期 日**：2022年10月19日(水)

■ **ク ラ ス**：2年A組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・体操／新体操競技で北京2008大会に出場したと自己紹介した後、オリンピックバリューの3つの価値について、エクセレンス：「一生懸命頑張る」「努力する」、フレンドシップ：「仲間」「お互いに思いやる」「協力」、リスペクト：「敬意/尊重」「感謝」と説明し、現役時代だけではなく、引退後の現在も大切にしている言葉であり、この3つの言葉に加え、積極的に挑戦することを意識して、運動の時間に取り組んでほしいと伝える。

○主運動等



・準備運動として、2人組で向き合い、お互いの中央に置かれたボールを坪井先生の指示を聞きながら取り合う「ボール取りゲーム」を実施(全5回)。指示を出すテンポを上げたり、「頭」の指示でボールを取る等、ルールを変更しながら実施した。
 ・主運動として、「8の字跳び」を実施(全3回)。実施後の結果発表では、「縄を回すスピードを調整した」「跳ぶ順番を変更した」等、より良い結果へ繋げるための様々な作戦が挙がる。



・運動の時間を振り返り、作戦タイムと実践、それぞれ90秒間と短い時間の中でも多くの成長を感じられたということは、夢や目標の達成に向かってどのように時間を使うかで結果が変わるということである。皆の頑張り、挑戦する姿勢は素晴らしかった。座学の時間ではオリンピックバリューの3つの価値について、自身の経験も交えながら、さらに深掘りしていきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：坪井 保菜美 先生 (体操／新体操)【出場オリンピック／北京2008大会】

■ **期 日**：2022年10月19日(水)

■ **ク ラ ス**：2年A組／座学の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ オリンピックの価値を伝える



・北京2008大会に出場した際の映像を見せ、この大会でリボンを使用した大技を担当するまでの経験を振り返り、親元を離れ、毎日8時間以上の練習と代表選考メンバーとの共同生活は辛いことも多かったが、支えてくれた家族や周りの方々のためにもオリンピックの舞台に立つという目標へ向け、誰よりも早く技を習得するため、毎日の練習に加え、自主練習を続けた結果、大技を習得することができ、その結果、代表メンバーに選ばれた。

○個人ワーク ～ グループワーク 等



発問：夢や目標を実現するために何をすべきか、取り組みたいことを書き出してみよう。

発表：エクセレンス：「何事も繰り返し努力する」「誰よりも練習に励む」「夢や目標に向け、挑戦し続ける」等

フレンドシップ：「手を取り合い、助け合う」等

リスペクト：「周りの方々に対する感謝を忘れない」等



・座学の時間を振り返り、大きな夢や目標だけではなく、どんな小さなことでも達成に向けて具体的などのような行動をとるべきか、言葉にすることで、より分かりやすく見えてくる。自身も引退後は好きだった絵画を続けたことで、新たな仕事に繋がった。オリンピックバリューの3つの価値に加え、何事にも挑戦する気持ちを忘れずに、豊かな人生を送ってほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真

・2年A組



■ 記念品贈呈

・2年A組



■ 修了証贈呈

